ネット依存度スクリーニングテストの種類と判定方法

１　DQ（Diagnostic Questionnaire）

区　分	内　　容		
テスト説明	アメリカのキンバリー・ヤング博士により開発された診断質問票 厚生労働省研究班が 2017 年度に実施した全国調査に採用		
判定方法	８個の設問に対して、選択肢は２個（「いいえ」「はい」） 「はい」の回答数に応じて依存度を判定する。		
判定基準	適応使用者	不適応使用者	病的使用者 （ネット依存が疑われる）
	該当数２以下	該当数３～４	該当数５以上

２　Ｋスケール

区　分	内　　容			
テスト説明	韓国において、政府が開発したテストで医療機関で使用される。			
判定方法	15 個の設問に対して、選択肢は４個（「全くあてはまらない」「あてはまらない」「あてはまる」「非常にあてはまる」） 各項目の回答には１～４点が設定されており、その合計点に応じてネット依存度を判断する。（総得点のほか要因別得点も考慮し、判定）			
判定基準	学生区分	問題なし	中リスク （依存に対する注意が必要）	高リスク （依存傾向が非常に高い）
	小学生	15～38 点	39～41 点	42 点以上
	中高生	15～40 点	41～43 点	44 点以上

３　IAT（Internet Addiction Test）

区　分	内　　容		
テスト説明	アメリカのキンバリー･ヤング博士により開発されたテストで医療機関で使用される。世界で最もよく使用されているテストと言われる。		
判定方法	20 個の設問に対して、選択肢は５個（「全くない」「まれにある」「時々ある」「よくある」「いつもある」） 各項目の回答には１～５点が設定されており、その合計点に応じてネット依存度を判断する。		
判定基準	問題なし	中リスク （依存に対する注意が必要）	高リスク （依存傾向が非常に高い）
	20～39 点	40～69 点	70 点以上